丸山湿原群保全の会会報

（第 102 号）

発行日：平成 28 年４月 14 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788

臨時連絡先　　090 - 1895 - 8061（今住）

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

前回の会報にタムシバ満開近しと書いたばかりなのに、あっという間にソメイヨシノも終わり、ヤマザクラが全盛を極めております。湿原付近もにぎやかになり、木々が芽吹き、かわいい草花があちこちで見られるようになりました。

私の自宅付近では３日にツバメが飛来し、得意げに飛行技術を披露しております。年度初めで、何かと忙しい時期かと思いますが、活動にご参加よろしくお願いいたします。

（今住　４月 12 日作成）

活動報告

★４月９日（土）

会員９名の参加、初夏を思わせる天気でした。

今回は竹筒ポストの新調と定期観察が主たる活動です。

【竹ポスト】

竹は孟宗竹（肉厚１２mm）を用意。
現場で職人（会員）３人が作業。約 1 時間で完成し交換しました。青々としたすがすがしい姿が美しい。訪れた多くの方が入れてくれるように願います。

【植　物】

別動隊６名は定期観察へ。道みち花々の確認観察（半ガイド講習）をしながら、視点場・水検査地点へ。

早春を飾るスミレ３種、キランソウ、ツクバキンモンソウ、シュンラン、ショウジョウバカマ。木本類では、コバノミツバツツジ、ヤブツバキ、クロモジ、ウリカエデの開花が見られました。（____の解説は最後に記載）

シュンラン（春蘭）

ツクバキンモンソウ（筑波金紋草）

西谷方面の言い伝えでは、白花（コブシ＝タムシバ）の多い年は雨が多く、赤花（ツツジ＝コバノミツバツツジ）の多い年は日照りといいます。今年は白花優位。水害が出ないことを願います。

【動　物】

エントランス駐車場に**アナグマの死体。別名ムジナ。**「同じ穴のムジナ」のムジナです。死んでから数日たっているらしく、ハエがたかっていました。

タヌキと混同されますが、穴を掘るために爪が長く進化しています。鼻も少し長いように感じます。

肉はおいしいらしく、狸汁とされているのはアナグマの肉です。

昔話の「かちかち山」に出てくるタヌキもアナグマが有力だとか。土葬された死体を掘って食べていたという言い伝えがあり、「かちかち山」のおじいさんにごちそうする狸汁＝婆汁が生まれたのではないかということです。

この２種は混同されるのですが、タヌキはイヌ科、アナグマはイタチ科だというから驚きです。

湿原に向かう旧道の水たまりに、**カスミサンショウウオの卵のう**。少し前の雨で上流から流れてきたもののようです。藻類が付着していましたが、中の幼生は健在です。元気に卵のうから出てくることを願います。

カナヘビ、ニホントカゲが元気に活動を開始。昆虫が多く出てきた証拠です。

昆虫類は、**アカタテハ、ルリタテハ、キチョウ、スキバツリアブ**など。**ホソミオツネントンボ**も見たような気がします。**ギフチョウ**も最後に残った４人（見たのは３人）の前に現れました。

カエル類では、**タゴガエル**の独特の声が竹ポスト周辺の小川から聞こえました。**シュレーゲルアオガエル**の鳴き声は、前回の活動日からコロコロと心地よく聞こえています。

【来場者数】

目的	市内	市外
丸山	8	5
ハイキング	9	13
その他	1	0

【定期基礎調査】

場所	時間	気温	電気伝導度（11:00）
入口	10：07	21℃	水温 21℃ 23μS/cm
視点場	10：50	20℃	

季節の割に来場者数が少ないように感じました。ハイカー（グループ）には当日も出会いましたが、黒岩方面に抜けるグループが多いようです。残念なことに竹筒ポストの存在に気がつかれていないようでした。湿原方面からの来場者には見えづらい可能性もあります。検討課題です。

電気伝導度は、ほぼ安定しています。木々の伐採等による富栄養はまずないと考えてもいいようです。しかし、今後もモニターは重要。

【水量調査】

前回も報告した通り、本年度から実施しないとの結論を出しました。今まで、計測メンテナンスご苦労様でした。調査結果の取りまとめについては、何らかの形でいただきたいと思います。

課　題

今後の活動方針について意見交換をしていきたいと思います。

より「丸山湿原群」を知り、自ら課題を見つけられるようになればと思います。（ガイドができるように）

また、作業活動も増やしていけるよう計画を練る必要があります。積極的なご意見を。

もちろんただ「のほほん」と湿原、里山を楽しむ活動を否定するようなことはありません。これも大事な活動だと思います。**「丸山ステキ」と人に伝える活動が一番大切かもしれません。**

次回活動日★4月24日（日）5月14日（土）5月22日（日）ご参加ください。

今回（４月９日）の植物

スミレ３種

日本のスミレの仲間は変種を含めれば５０種～７０種にも及ぶと言われ、見分けるのも大変です。その中の３種で、一番よく目にするスミレです。

シハイスミレ（紫背菫）

本州（中部地方以西）～九州の日当たりのよいところに生える。高さは 5～8cm。葉は光沢があり、花期には長さ 1.5～5cm の三角状狭卵形。裏面が赤紫色を帯びる。花は淡紅色～濃紅紫色。花弁は長さ 0.8～1.2cm。側弁は無毛。唇弁には紫色のすじがある。距は長さ 5～6mm で細く、後ろに跳ね上がる。萼片の付属体は全縁。花期は 4～5 月。

タチツボスミレ(立坪菫)

タチツボスミレは立坪菫と書き、坪は道端、庭を意味し、どこにでも見られると言う意である。「立」は花の盛りが過ぎると茎が立ってくる事から来ている。

花の頃の茎は高さ 10cm ほどだが、花の後高さ 30cm ほどに伸びる。花期の葉は長さ約２cm の卵形で、花の後２倍以上の大きさになる。托葉はクシの歯状に深裂する。花はふつう淡紫色だが変異が多い。花弁は長さ 0.8～1.2cm。距は長さ 6～8mm。花期は 4～5 月。

ニオイタチツボスミレ(匂立坪菫)

花は径２cm ほど濃紅紫色で、花の中心が白く抜けているように見える。花弁は丸く、花弁はそれぞれが重なっている。花に僅かに芳香があるのが特徴。 葉は径２cm 前後の円形に近く、基部はハート型（心形）。茎葉では三角状狭卵型。 日本各地に分布する。

また、この**ニオイタチツボスミレ**の花色は濃紅紫色で、草姿は**タチツボスミレ**に似ているが、花弁が丸く花弁がそれぞれ重なっていること、花の中心が白く抜けたようになっていること、僅かに芳香があることで区別できる。（匂いは？です。）

花期は 4～5 月。

湿ったところに咲く花

ショウジョウバカマ（猩々袴）

北海道～九州の山地の谷沿いや林野の湿ったところに生える。根生葉は多数ロゼット状につき、倒披針形で長さ 5～20cm、しばしば葉先に小苗ができる。花茎は高さ 10～30cm、鱗片葉が数個つく。茎頂に短縮した総状に数個の花を横向きにつける。花は雌性期から雄性期に移る。花披片は淡紅色～濃紅紫色、まれに白色で、長さ 1～1.5cm、基部はややふくらみ、花後も緑色になって残る。雄しべは 6 個、花糸は花被片と同長かやや長い。葯は紅紫色。花茎は果期に伸長して高さ 50～60cm に達する。さく果は 3 つに深くくびれる。内側中央の縫合線から 2 裂する。種子は線形で両端に糸状の付属体がつく。花期は 4～5 月。

猩々は中国の架空の動物。緋色で猩々緋という色も。能にも演目在り。オランウータンの和名でもある。

日陰の木本

クロモジ（黒文字）

枝の黒い斑点を文字とみて、黒文字の名が生まれたとする説と、黒木の楊枝あるいは黒楊枝から語尾を省略する宮中の文字詞（もじことば）で、黒文字と呼ばれたとする説がある。

雌雄異株。開花は３～４月ごろ、葉腋に葉の展開に先立つか、同時。雄花（６～７mm）は５～２０個、雌花（５mm）は５から１５個が集まって、球形の花序を形成する。折るといい匂いがする。（個人的差あり）

和菓子の「高級ようじ＝クロモジ」の木です。

掲載写真はクロモジ以外丸山のものです。クロモジは玉瀬地内で撮影。解説等はネットを参考に編集したものです。**ギフチョウが撮れなかったのが残念無念！**